

しらうめ会報

令和2年3月1日



明秀学園日立高等学校同窓会

〒317-0064 茨城県日立市神峰町3丁目2番26号

TEL 0294 (21) 6328(代)

新しい時代と共に



同窓会会長 神山 千恵子

本年度も「しらうめ」を皆様にお届けできることは、日頃より皆様から頂戴している会の活動への深いご理解と、温かいご支援のおかげと心より感謝いたします。平成31年（令和元年）度の母校の活動ですが、昨年に引き続き多くの活躍があった1年でした。スポーツではサッカー部の3年連続4回目の全国高校サッカー選手権大会出場、女子バスケットボール部のウィンターカップも4年振りの出場、吹奏楽部の東関東大会への出場など目覚ましい活躍が多く見られました。その他の運動部や文化部も活躍し、活動は県北地域だけでなく県内にも幅広く母校の名を轟かせている点は同窓生として誇らしい限りであります。

さて、今回の会報誌に関しては、サッカー部、女子バスケットボール部、男子卓球部、吹奏楽部の活躍を皆様にお届けいたします。サッカー部につきましては昨年末から今年の正月にかけてテレビ中継をご覧になった皆様も多いかと推察いたしますが、3年連続出場の快挙を成し遂げ、常連校の仲間入りを果たしているのではないかと思います。毎年出場していますと、不思議と今度も出場できるだろうとの考えを一般人は思ってしまうかもしれませんが、その陰で指導者の方々や生徒の皆さんのご苦勞をされていることを忘れてはなりません。

今後、卒業生の皆様には母校への趣旨をご理解いただきご協力いただけるようお願いいたします。

同窓生の皆さまと母校が相互に連携するために



学校長 矢野 正彦

同窓生の皆様には母校の教育活動の推進に深いご理解と、温かいご支援をいただき心より感謝いたします。現在学校は、人口減少社会の中、安定した生徒数を確保しつつ持続的に成長する学園を目指すとともに、科学技術の急速な発展の中、時代が変わろうとも活躍できる人材を育てるために、コンピテンシー（社会で求められる資質能力）を高める教育を目指し、日々教育活動に邁進しています。更に2022年度から開始の新学習指導要領の改定に伴う新カリキュラムやアクションプラン2025(2025年は創立100周年)の作成に取り掛かり、次の時代にも輝く明秀日立として、同窓生の皆さまに誇れる母校となるべく努力しているところです。

さて、現代の多くの危機を克服するためには、「排除の論理」ではなく、「社会的包摂の論理」の考え方を構築することが今後の社会に不可欠であると言われていています。社会的包摂とは、一人ひとりを社会の構成員として取り込み、支えあい、人々の多様性を認めるだけでなく、あらゆる人々の、潜在的な創造力を具体的に発揮させる積極的な考え方が込められており、ダイバーシティ（多様性）から一歩進んだ考え方であるそうです。

今後、同窓生の皆さまと母校が相互に連携する機会や行事を積極的に設け、同窓生の皆さまが有する素晴らしい潜在的な創造力を具体的に発揮され、母校に還元頂くことが大切であると私は考えています。ソーシャルインクルージョン（社会的包摂）の考え方を同窓生と母校が共有し、更なる明秀日立発展の礎になることを期待しています。

在校生諸君は本年も大いに活躍しています。3年連続4回選手権出場のサッカー部、インターハイ・ウィンターカップに出場した女子バスケ部、県新人選男女団体優勝の卓球部、全国大会に男女団体で出場したゴルフ部、県コンクールA部門金賞の吹奏学部、秋の関東県予選ベスト4の野球部、初めて県女子駅伝に出場した陸上部、更に茨城で開催されたゆめ国体でも開会式で演技したダンス部初め、多くの本校生徒がその能力を開花させました。また、インドのリシクル学園にも生徒4名・教員2名を派遣し、日本のみならず、海外の人々の文化的背景などを理解する機会を設けることも出来ました。

これからも母校発展の情報発信を同窓会報や新聞等を通して行うと共に、ホームページでもリアルな情報発信を行い、同窓生の皆さまから誇れる母校になれるよう精進してまいります。今後とも同窓生の皆様には、力強いご支援を宜しくお願い申し上げます。

女子バスケットボール部 「インターハイ県予選優勝33回・ ウィンターカップ県予選優勝22回」

【監督：筑波 大】

Q ウィンターカップ・インターハイを振り返り、どのような大会でしたか？

A 4年ぶりの全国大会出場。3年生も初めての経験でしたが、初戦から力を発揮し、どちらも2回戦に進出できたことに精神的な成長を感じました。しかしながらインターハイ・ウィンターカップで敗れた両チームは全国ベスト4。自分たちの足りない部分を痛感させられ、この差を埋めるために日ごろの練習への取り組み方やアスリートとしての意識を改革する必要があると感じました。目標は達成できませんでしたが、やはり全国大会に出場するということは、とても大きな収穫があると再確認できました。

Q 今年のチームはどのようなチームでしたか？

A 個々の能力やスキルはあるものの、まとまりに欠けるチームでしたが、お互いの良いところを認め合い、自分の欠点を補ったり、仲間の弱点を助け合ったり、最終的には素晴らしいチームになったと感じています。「自分自身のために努力する」姿勢が身につき、一人一人がコート以外でも自立する力が身につきました。大学進学後も高いレベルで競技を続ける選手が多いため、そういった意味でも個々の意識が高まったのではないかと思います。



【主将：柳瀬 柚奈】

Q ウィンターカップを振り返り、どのような大会でしたか？

A 高校バスケの集大成。これまで経験してきた大会とは全く違う雰囲気でした。個々の反省点は多々ありますが、チームとしてはプレーヤーもスタンドにいるメンバーも一丸となり、一戦一戦を戦うことができたと思います。しかし更に上を目指すために、今回の経験を活かし、レベルアップを出来るよう、後輩たちには頑張ってもらいたいと思います。

Q 3年生になっての一番の思い出はどのようなことですか？

A 日立市のさくらアリーナで行われたインターハイ予選です。多くの方に会場に足を運んでいただき、大声援の中、4年ぶりに優勝することができました。3年生全員がコートに立つことができ、ブザービートを決めた時の感動は忘れられません。

Q 明秀日立に入って良かったと思うことはどのようなことですか？

A 素敵な仲間とたくさんの経験ができたことです。トレーニングで怒られたり辛いことはたくさんありましたが、それ以上にこのメンバーで全国の舞台に立てたことは何にも代えられない宝物です。素晴らしい仲間と出会い、明秀のユニフォームを着て戦えたことに感謝しています。



サッカー部 「全国高校サッカー選手権予選3連覇！ 2020年茨城県内史上初4連覇へ」

【監督：萬場 努】

Q 選手権を振り返ってどのような大会でしたか？

A 今大会の目標は『結果として日本一』『日本一の組織力』という2つを掲げ、全国大会に臨みました。また、サッカー部の1年間の集大成として、チームの運営や準備等を含め、今までの成果を図るという位置づけでの大会でもありました。



試合に関しては『一戦必勝』『自分達のスタイル (Strong and Technical) で戦う』をテーマに挑みました。1回戦の高知高校（高知県代表）戦では前半に得点を上げるも、後半に相手の猛攻を受けました。選手達が粘り強い守備で応戦し、無失点で抑えることができ、なんとか初戦を突破することができました。2回戦では神戸弘陵高校（兵庫県代表）と対戦。先制され更に試合を支配される苦しい展開で後半に1点を返し反撃に出ましたが、あと一歩及ばず2回戦敗退となりました。

目標の1つであった『結果としての日本一』は達成できませんでした。しかし、試合に全部員で臨むことや最後まで諦めない『姿勢』は『日本一の組織力』に相応しいものであったと私は思います。このような取り組みを見せてくれた選手達を誇らしく思うと同時に、「もっと勝たせてあげたかった」と自分自身の未熟さも感じました。改めて、私達の組織はまだまだ発展し続けることが必要であると認識することができました。

最後に、年末年始の忙しい時期にも関わらず、会場をホーム同様にして頂いた大応援は私達に力以上のプレーを引き出させてくれたと感じております。本当にありがとうございました。これからも本校サッカー部は『挑戦』を合言葉に邁進してまいります。引き続き温かいご指導、ご支援を頂ければと思います。

Q 今年のチームはどのようなチームでしたか？

A 今年度は大山と関口順の2人を主将にするという新しい挑戦を試みました。2人にはそれぞれ特徴があり、お互いの意見をまとめることも難しかったと思いますが、2人とも素晴らしい主将であったと思います。

このチームを語る上では、『なかなか大会成績が思うように残せなかった』ことは外せないと思います。各大会それぞれあと一歩の所でことごとく敗戦。当たり前になりつつあった上級大会進出ができなかった事で選手達は自信を完全に失っていたと思います。この苦しい状況を脱するため『自分達を向上させる』と覚悟を決め、夏休みに猛練習を行いました。選手達にとっては本当に辛く厳しい期間だったと思います。また、例年以上に戦術練習の徹底を図りました。このような試行錯誤を繰り返しながら秋に近づくにつれ、徐々に自分達らしさを発揮することができるようになりました。

このような経験があったからこそ、選手権では県大会を3連覇することができたと感じています。本当に厳しい練習を積み重ねてきた、だからこそここまでこれた選手達だと思います。





【主将：関口 順也】

Q 部活動を通して学んだこと・これからの人生に活かしていきたいことはどのようなことですか？

A サッカー部の活動を通して、集団生活での規律の重要性や感謝の気持ちをもつ大切さを学びました。サッカーというスポーツは11人のうち1人でも欠けてしまうと、試合に勝つことが困難になり、チームとしての統制も難しくなります。そのため、「チーム」を第一に考えることの大切さを学びました。また、1人では成立することのできないスポーツだからこそ、仲間・コーチ・親への感謝の気持ちなどが大事だと学ぶことができました。

Q 3年生になって一番の思い出はどのようなことですか？

A 選手権前の選手ミーティングでの出来事です。自分達の代は3年間で何も成し遂げることができていませんでした。しかし、選手権だけは勝ちたいという思いが3年生全員にあって、最後の大会で日本一を達成するために涙を流しながら語り合ったことを今でも覚えています。そこに全員の覚悟があり、本気の練習を積み重ねたからこそ県大会で優勝し、全国大会で明秀スタイルを体現できたと思っています。



【主将：大山 晟那】

Q 選手権を振り返り、どのような大会でしたか？

A 1年間なかなか思うような結果が出ず、主将として厳しい時期もありましたが、最後の大会で全国大会出場を決めることができ良かったです。選手権本大会では全国のレベルの高さを感じました。今大会では多くの下級生が活躍し、全国の舞台でも十分に戦えることを示してくれたと思います。自分達の想いも背負って、後輩達には更なる飛躍を期待します。

Q 明秀の部活に入って良かったと思うことはどのようなことですか？

A 114人のメンバーと全国大会に出場できたことです。また、素晴らしい仲間・スタッフに出会えた事に感謝しています。そして、萬場先生の下でサッカーをでき、サッカー選手としても1人の人間としても成長させていただきました。明秀日立での様々な出会いやこれまでの多くの経験を活かし、今後の人生に活かしていきたいと思います。自分自身も更に努力をし、プロになります。



活躍する
在学生

男子卓球部

「2年ぶり6回目のインターハイ出場！！」

【監督：芦間 雄太】

昨年度はインターハイ茨城県予選の決勝で岩瀬日大高校に負けてしまったので、今年はずり本大会に出場しようと選手たちと決意を固め新チームがスタートしました。まずは予選を勝ち抜くために選手たちと大会毎にミーティングを行い、岩瀬日大の対策を徹底的に行いました。予選の決勝は岩瀬日大高校を大接戦の末3-2で勝利し、インターハイ出場を決めました。

本大会では、鹿児島県での試合に関わらず、校長先生を始めたくさんの保護者や関係者の方々が応援に駆けつけてくれました。結果は1回戦で福島県代表に負けてしまいましたが、個人戦ではキャプテンの竹内がジュニアナショナルチームに選ばれている選手に勝つなど、1年前から決意を持って取り組んできたことが表現できた大会だったと思います。

今年はキャプテンの竹内をはじめ、2年生が主体的に行動できるチームでした。苦しい練習こそ声を出して全員で乗り切ることができ、勝負強いチームだったと思います。



【主将：竹内 陽介】

Q 部活動を通して学んだこと・これからの人生に活かしていきたいことはどのようなことですか？

A 私は卓球部の部長を務めた経験から人をまとめる力を身に付けることが出来ました。また、卓球を通して、様々な人とのつながりの大切さを学びました。これから社会に出て、人との出会いを大切にしていきたいです。

Q 3年生になっての一番の思い出はどのようなことですか？

A インターハイの県予選前の練習後に自分たちで坊主にしたことです。気合十分で試合に臨むことが出来、インターハイにもチーム一丸となり、出場することが出来ました。

活躍する
在学生

吹奏楽部

「吹奏楽コンクール高校 A 部門初の東関東大会出場！！」

【顧問：瓦吹 弘樹】

今年度は、生徒たちの日々の努力、多くの方々からの支援により東関東大会に出場することができました。本当に感謝しております。東関東大会は初の舞台であり、味わったことのない緊張感、焦りや不安が漂っていた音楽室やステージ上での空気を今でも覚えています。ひたすら「評価されるいい演奏をしよう」、「絶対に県大会金賞・代表をとる」という強い気持ちを音にぶつけていたように感じます。今年度のチームを一言で言うと十人十色。個性豊かな3年生は、1年生の時から厳しい試練を乗り越えなければならず、辛い日々を送ったこともあったと思います。それでもあきらめずに音楽に向き合い、仲間に向き合い、だからこそ、色彩豊かにいくつもの作品を生み出したのだと思います。ここをスタート地点とし更に飛躍していけるよう日々精進してまいります。



【部長：豊川 紘規】

Q 東関東大会を振り返ってどのような大会でしたか？

A この大会を通して部活として大切にしていたことがあります。それは、常に音楽を全力で楽しみ、聴いて下さる方を楽しませることです。目標をやり遂げるために、努力を決して惜しみませんでした。私たちが東関東大会に出場できたのは、たくさんの方々の支えや応援があったからだだと改めて実感しました。

Q 3年生になっての一番の思い出はどのようなことですか？

A 3年生にとって最後の舞台であるオータムコンサートです。東関東大会を終えコンサートまで限られた準備期間の中でお客様に感動を与えられる演奏を届けられるよう1人ひとりが一生懸命取り組みました。本番では、今までの感謝の気持ちを込めて演奏することができ、明秀サウンドを届けられたと思います。数多くの演奏を行ってきた中で、最も音楽を楽しむことができた1日でもありました。



Q 部活を通して学んだこと・これからの人生に活かしていきたいことはどのようなことですか？

A 私は3年間で仲間と協力することの大切さを改めて学ぶことができました。全体の把握や1人ひとりの考え方が異なることからまとめることが困難でもありました。ですが、私の近くに頼れる仲間がいたことで支えられながら、部活をまとめることができました。学年関係なく仲が良いことで、良い刺激を与えながら活動できたとも思います。これらを活かして、様々な考えを尊重し、多くの人と協力することを大切にしたいと思っています。

進路について

進路指導部長 栗原 英明



今年度も残すところあと一月余りとなりました。3年間、勉学やスポーツに打ち込み、自らを高め、自身の手で進路を切り開いた生徒たちの逞しい姿を見ていると、進路について、ともに考え、悩んだ日々も懐かしく感じられます。将来、生徒たちは変化の激しい予測不能な時代を生き抜いていかなければなりません。明秀日立の3年間で身につけた、知識・技能とそれらを活用する力を存分に発揮して、生涯学び続け、豊かな人生を送ってほしいと願っています。

進学について

昨年度、本校では国公立大学は過去最高の79名（既卒生を含む）、私立大学はGMARCH合格者33名を含む384名（既卒生を含む）の合格実績（延べ人数）を出し、4年制大学への進学率は過去最高の66%となりました（文部科学省の「令和元年度学校基本調査」によると、全国の4年制大学への進学率は53.7%）。更なる飛躍が望まれる今年度ですが、3学年在籍者349名の内、約90%の生徒が高等教育機関への進学を希望し、4年制大学への進学希望者は73%に達しています。大学入試センター試験は過去最高の141名が受験しました。原稿を執筆している時点（2月10日現在）では、10名の生徒が国公立大学等（筑波大学1名・茨城大学2名・新潟大学1名・防衛大学校6名）に合格し、私立大学についても、中央大学7名や青山学院大学3名等に合格しています。これから国公立大学の個別試験や私立大学の一般入試が行われますが、生徒たちは必ずや夢を現実のものにしてくれると確信しております。（下のQRコードより現在の合格実績をご覧くださいことができます。）今後の合格状況につきましては、本校のホームページにて随時ご報告させていただきます。

就職について

本校においてはここ数年、高等教育機関への進学率が上昇傾向ですが、毎年1割程度の生徒が就職を希望します。今年度は38名が就職を希望し、全員が内定を勝ち取りました。売り手市場と言われる昨今の就職状況ですが、本校の場合も、県内企業だけで191社（生徒1人当たり約5社）、県外からも約200社から求人票をいただきました。業種によっては、生徒の希望が特定の企業に集中することで競争倍率が上がり、内定を勝ち取るのが難しい状況もありましたが、生徒たちの努力が実を結び、4年連続の就職内定率100%を達成することができました。（内定企業については、下のQRコードよりご覧ください。）

おわりに（真の進学校を目指して）

2021年度入試から、これまでの「大学入試センター試験」に代わり「大学入学共通テスト」がスタートし、「知識・技能」だけでなく、「思考力・判断力・表現力」がより一層重視されることとなります。日々の教科指導や進路指導のより一層の充実はもちろんのこと、「MEISHU DIARY」（オリジナル手帳）を用いた自己管理力の養成や、生徒自身の「振り返り」を強化するためのポートフォリオの蓄積（Classiを活用）等を通して、「自ら学び、考え、行動できる」人材の育成に努めてまいります。教職員一同、これからも生徒1人ひとりの進路の実現のために、生徒に寄り添いながらともに学び、ともに成長していきたいと考えております。

今後とも、同窓会の皆様の変わらぬご理解とご支援をよろしく申し上げます。

卒業後の進路

合格実績・内定企業については、QRコードよりご覧ください。





MEISHU HITACHI

明秀学園日立高等学校

夢を目標に変え目標を確実にする
そのために明秀日立は3コース

特進
ST
コース

特進
S
コース

特進
A
コース

広がる、つながる。
その先を目指す君とともに！

国公立大学等 過去最高 **79名**

東北大学 **1名** 東京学芸大学 **1名**
茨城大学 **16名** 群馬大学 **1名** 福島大学 **3名**
茨城県立医療大学 **2名** 弘前大学 **2名** 防衛大学校 **4名**
その他多数

私立大学 **384名**

慶應義塾大学 **1名**
東京理科大学 **5名** 明治大学 **5名**
青山学院大学 **2名** 立教大学 **2名**
中央大学 **9名** 法政大学 **9名** 二松学舎大学 **8名**
その他多数 【特別提携校】

慶應義塾
東京理科
MARCH
33名



広がる国際交流



→フレンドシップ提携国

オーストラリアのバーンサイド高校に加え、2019年にインドのリシクル高校とフレンドシッププログラム協定締結。

→オーストラリア短期語学研修

研修先は、クイーンズランド州の高校。実施時期は、7月の約2週間。

→ハワイ交換留学

「日立南ロータリークラブ」「ハワイ・ワイキキロータリークラブ」共同主催事業で、留学先はハワイ・ワイパフ高校。実施時期は、受け入れが2月から約1か月間、留学が3月から約1か月間。

→修学旅行

特進 ST・S コース ーカナダ語学研修型ー
特進 A コース ーマレーシア体験型ー

躍進する部活動

サッカー部 全国高等学校選手権大会出場3年連続4回目
女子バスケットボール部 ウィンターカップ出場4年ぶり22回目
ゴルフ部 全国高等学校ゴルフ選手権大会出場
卓球部 全国高等学校総合体育大会 個人・団体出場
陸上部 全国高等学校総合体育大会 女子円盤投げ出場

その他の部活動も活躍しています。



ホームページ & ブログもチェック！

公式ホームページや入試情報を配信する「入試情報ブログ」
部活動のことがわかる「部活動公式ブログ」で
明秀日立の今を知ることができます。

通信制

「Smile&Smile」のスローガンのもと、
これからの社会に必要な力をつけられるよう
様々な取り組みをしています。

〒317-0064 茨城県日立市神峰町 3-2-26
TEL 0294(21)6328 FAX 0294(21)6341

HP トップ
はこちら



入試情報
ブログ
はこちら

